

**環境経済・政策学会
創立30周年記念シンポジウム**

**生態系と調和した
持続可能な農林業**

福原 圧史

**島根県鹿足郡吉賀町
柿木村有機農業研究会**

はじめに

○住まいのある地域：島根県鹿足郡吉賀町旧柿木村

（島根県、山口県、広島県の県境）

- 「清流日本一」の高津川——町内に源流をもつ
- 街道のある村・町——人の行き交い
- 山村——少量多品目、自給をベースにした農林業
- 1980年代から有機農業の取り組み（本日の本題）
- 岩国市などの瀬戸内沿岸との交流——柿木村で提携運動を開始
- 1889年（明治22年）の人口2,360人
- 2005年（平成17年）の人口1,461人→合併の年（明治以来）
- 2025年（令和7年）の人口 1,275人



柿木村有機農業研究会のメンバー



地域計画の策定に向けて 5年先、10年先の集落の農地計画

- 「農地を荒らしたくない」という農民の思いがあるから採算の合わない米作りが成り立っている。
- 潰すことはできないが、農業を担う若者もいない。
- 過剰投資にならない山村型の自給農業
(暮らし農業)
- 消費者との提携、学校給食を優先した生産活動
- 無理な専業をめざさない多様な暮らし農業

中国山地の暮らし農業

- 豊かな地域資源を生かした有機農業運動と住民の健康づくり
- 集落維持と所得対策
- 高齢者の知恵や技の継承
- 集落を中心にした地域の自立と担い手育成
- 都市との交流による定住対策

過疎発祥の地から 山村の豊かさを次の世代に

1. 山村の有機農業推進は「暮らし農業」と「産業農業」をバランスよく、自給、協同の有機農業推進
1. U・Iターン者が求める「自然との共生」「むらとまちの共生」が山村の未来を拓く
1. 流域市町村の連携による有機農業の推進
1. 有機農業運動は、流域の森・里・川・海の連環から

山村の課題

①農業基本法 (1961年) 以降の山村農業の方向

- ・機械化、単作、規模拡大による商品生産をめざす方向で良いのか？

②家庭の経済を守るための苦勞—出稼ぎ⇒行政による雇用対策

- ・機械化貧乏、現金収入を求めて出稼ぎへ
- ・農林業中心の生計から、農外収入を中心にした生計へ

③高度成長と減反政策から、山村は貧しくなった (1970年～)

- ・転作農産物は換金が困難、産地間競争も困難→競争の発想で良いのか？

④生活改善運動と食べものの自給生産 (1975年～)

- ・家庭の経済を守るために——自給生産を見直す、自給の価値
- ・大豆生産による味噌の自給
- ・根菜類を中心にした転作作物の振興
- ・小規模な農家が、それぞれの余剰を学校給食へ供給するしくみをつくる

柿木村有機農業研究会の出発：提携運動

- 消費者グループとの提携(1980年10月)
→山口県岩国市の消費者グループと
「柿木村有機農業を考える会」一通の手紙から
- 柿木村有機農業研究会の発足(1981年1月)
→山口県徳山市の消費者グループと提携(1981年6月～)
- 日本有機農業研究会全国集会に参加...福岡県須恵町
- 日本有機農業研究会創始者：一楽照夫氏来村(1981年2月)
- 学校給食へ有機農産物の供給を開始(1983年～)
- 島根県益田市の消費者グループと提携(1983年6月～)
＜島根県西部と山口県に提携の輪がひろがる＞
益田市学校給食センター、広島県廿日市市の学校給食センターに味噌の供給
岩国市、光市の学校給食に有機野菜の供給

有機農業が村の政策になる
柿木村総合振興計画策定(1991年)

「健康と有機農業の里づくり」宣言

過疎克服の三つの基本課題

- | | | |
|-------|---------------|-----------------------------|
| 第1の課題 | 人口対策 | 毎年6世帯のU・Iターンを受け入れ |
| 第2の課題 | 所得対策 | 複合経営、複合収入、多様な暮らしの実現 |
| 第3の課題 | 生活環境対策 | <u>山村ならではの</u> 「豊かな暮らし」を求めて |

重点目標

1. 健康と有機農業の里づくり
農家の自給、地域の自給、多様な生産、加工、流通
2. 都市との交流
援農、農業体験、棚田オーナー制度、アンテナショップ
3. 福祉の里づくり
「子供に自然を 老人に仕事を」

※島根大学がおこなった柿木村への調査

がきのきむら

R1

農薬を使わないお米

V1

農薬を使わない野菜



「道の駅かきのきむら」 (1997年開設)

医・食・農満載大八車

高津川

「道の駅かきのきむら」 (1997年開設)



柿木村の野菜栽培基準

柿木村では皆さんにより安心して野菜を食べていただくため

柿木村独自の栽培基準を設けて、育てた野菜の履歴を一つずつラベルに表示しています

ラベル表示

農薬

化学肥料

V1

使っていない

使っていない

2年以上、無農薬・無化学肥料栽培を続ける
土壌で育てた野菜です

V2

使っていない

使っていない

表示する野菜は無農薬・無化学肥料で育てた野菜です

V3

ほとんどが
使っていない

微量の使用

指定資材だけを使用して減農薬・減化学肥料で栽培された野菜です

※「V」は「Vegetable（ベジタブル＝野菜）」の頭文字を表しています。

「道の駅かきのきむら」に掲げた野菜栽培基準、米の栽培基準もあり



かきのき村の「やさしい」栽培方法基準

V1	化学合成農薬・化学肥料を20年以上使用していない畑で栽培しています(※肥料JAS基準参照)
V2	施設栽培中は、化学合成農薬・化学肥料も使用していません
V3	化学合成農薬・化学肥料も、栽培過程の自然発生の害虫や草花で駆除しています(※駆除剤JAS2020-1農産物検査基準参照)

齊藤千栄子
冬瓜 231円

齊藤哲
中心す 172円

阿川有之
きゅうり 123円
赤心 174円

永塚忠正
きゅうり 136円
きゅうり 97円

阿川有之
きゅうり 153円

田村忠
青長 231円
阿川有之

佐藤櫻子
齊藤忠正
オクラ 153円

永塚忠正
甘長 153円
オクラ 153円

三浦成久
ミニトマト 192円

アンテナショップ (広島県廿日市市)
(2003年開設、2019年より企業組合で運営)

吉賀町誕生（2005年10月） 旧柿木村と旧六日町が合併

○吉賀町のめざすもの

- ・環境にやさしい有機農業を全町的に推進する
- ・豊かな地域資源を生かした定住・都市農村交流を推進する
- ・集落を中心に地域の自立と担い手を育成する(自立・互助)

○課題の克服

- ① 山間地農業の方向性を明確にする
- ② 有機農業運動の展開・住民の健康づくり
- ③ 集落維持と所得確保
- ④ 高齢者の知恵・技の継承

食と農・かきのきむら企業組合の創立

(2014年7月)

○創立の目的

本組合は、有機農産物の生産・流通の現状及び動向の把握と情報の交換を図り、**有機農業の推進**と有機農産物**流通の活性化**、**新規就農者の支援**、**都市との交流**を目的とする。

○企業組合のおこなう事業

- ・ 有機農産物及び加工品の生産、流通に関すること
- ・ 販売促進及び販路開拓
- ・ 有機農業推進に関すること
- ・ 新規就農者支援に関すること
- ・ 生産者と消費者、むらとまちの交流
- ・ その他、目的達成のために必要な事業

☞近年は広島県内のアンテナショップの経営もおこなう

吉賀町／旧柿木村の有機農業 の今後の展開・展望・課題

(1) 山村の有機農業推進は

「暮らし農業」と「産業農業」をバランスよく

☞山村の有機農業振興は、「暮らし農業」をベースにした「産業農業」を推進することが重要だと考える。

(2) 自給・協同の有機農業推進—むらとまちで

☞「本来あるべき農業」、「食べ方」や「暮らし方」を追求しながら、消費者と提携し、農業・農山村の課題を県内外の都市住民と共有して、輪をひろげる。そうしなければ、農山村の暮らしを継承することはできない。

・そのために、最も重要な課題は、**自給・協同の有機農業の推進**ではないか。

(3) U・Iターン者が求める「自然との共生」 「むらとまちの共生」が山村の未来を拓く

- 吉賀町の新規就農希望者は、多くがU・Iターン者。ほとんどが有機農業を志向し、自然の中で、職業（副業）を選ばず、自給的な「暮らし農業」をめざしている。
- 私たちは、U・Iターン者の多様な暮らし方を肯定しながら、農産加工、農家レストランやカフェ、農家民宿などにも挑戦している。
- 交流人口を増やすことが流域の定住対策に繋がることが期待している。

(4) 流域市町の連携による有機農業の推進

—吉賀町・津和野町・益田市—

- 有機農業運動は、**流域の森・里・川・海の連環**が課題である。
- 流域の定住対策は、**源流にある吉賀町から、下流にある市町と連携**して、**萩・石見空港**（河口部に立地）も活用しながら交流人口を増やしていかなければならない。

○ 3つの交流を進めたい

☐ → 有機農業の里づくり (**自然との交流**)

☐ → 有機農業への新規就農者との交流 (**人と人の交流**)

☐ → 有機農産物の生産・流通の拡大 (**上流と下流、村と町、農山村と都市の交流**)



[自然との交流]
[人と人の交流]

柿木で開催した 「食の文化祭」





[自然との交流]
[人と人の交流]

毎年開催している
「山菜を食べる会」





[農山村と都市の交流]
広島で開催している
マルシェのようす
有機産直市



ご清聴ありがとうございました

